

## 委員からの提出意見

### <小林 潔司 委員>

- ✓ 各省における標準化活動に対する温度差が非常に大きく、また省庁間での情報共有が難しいと感じており、各省庁に窓口を設けるなどの対策の必要性を最近強く感じている。
- ✓ 標準化の知見や国際的な場での運営等ができるような人材の蓄積が必要である。省庁だけでは人材の流動性が高いため、ノウハウが溜まりにくい。そのため、人材プールを各省庁で持っている必要がある。分野が違っていると難しいし、JIS規格だけでも厳しいと思うが、国として枠組み・仕組みが必要ではないか。中国は非常に強力な横断的なガバナンスを持って推進している。
- ✓ 官民連携は非常に重要ではあるが、コンフィデンシャリティの問題があり、特にイノベーションの最先端では難しい面もある。その点においても戦略が必要ではないか。

## &lt;森川 博之 委員&gt;

- ✓ 標準化をなんのためにするのかを、とにかく深掘することが大切。多くの場合、標準化は事業に競争力を持たせるためのもの。標準化が起点ではなく事業が起点。そのためには事業開発人材の参画が必須。本部会では、このような意識を周知いただくことにも意味がある。
  
- ✓ これまでの標準化活動の課題を分析して反省すべきところは反省し、次につなげることが大切。標準化を取ったとしても事業の強化に繋がらなかった反省事例は沢山あるので、なぜ事業の競争力につなげられなかったのかを分析して次につなげることが大切。今年の3月に出た米サイバー軍のレポートは、関係者へのヒアリングに基づきダメな点を明らかにした上で、次につなげる提言をしている。きちんと振り返ることも大切。
  
- ✓ 官民の連携ハブや産学官連携の場の設定は確かに大切であるが、「場」作りはとても難しいことを認識しておくことも大切。「ハコモノ」は簡単に作れるが、意味のある活動につなげるのはとても難しい。コンサルを活用して有識者を集めて場を作るなどの従来型のやり方では、「ハコモノ」に終わってしまう可能性が大きい。  
米国には、US Ignite という国の研究開発プログラムの「場」をきちんと回すための中間団体があるが、ファシリテーターやカタリストなどといった人材が充実している。マーケティングや法務、広報などさまざまなバックグラウンドを有する人も所属しておりタスク型ダイバーシティが実現されている。タスク型ダイバーシティを意識して場づくりを設計していくことも重要。